

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	八ヶ岳少年自然の家	評価対象年度	令和5年度
事業者名	・事業者名 一般社団法人富士見パノラマリゾート ・代表者名 理事長 名取 重治 ・所在地 長野県富士見町富士見6666番地703	評価者	青少年支援室長
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数 90,246人 (令和4年度:86,268人)	②年間延べ利用団体数 548団体 (令和4年度:576団体)
収支実績	単位:円 1 収入 指定管理料 266,275,000 物価高騰補填金 5,161,780 利用料金収入 6,785,950 環境収入 2,051,651 その他収入(食堂他) 100,690,487 合 計 380,964,868 2 支出 人件費・賃金 101,567,939 光熱水費 39,312,598 委託費 30,171,922 備品購入費 4,156,460 消耗品費 6,443,538 商品仕入れ費 83,948,832 修繕費 18,470,729 その他経費 83,829,812 合 計 367,901,830 3 差引 13,063,038	
サービス向上の取組	利用者にアンケートを行い、意見を取り入れた活動を行っている。また、自然教室のプログラムの一環として、地元農家と連携して田植えや稲刈りの体験を実施するなど、サービス向上に取り組んでいる。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	4	4
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	(評価の理由) ・八ヶ岳少年自然の家敷地内で、「自然に触れる」、「自然を感じるプログラム」を取り入れながら、自然の家のルールの中で子どもたちの育成に通じた事業を適切に講じ、計画通り、市内全ての小中学校を対象にした自然教室の円滑に受け入れることができた。 ・宿泊者や地域住民を対象としたふじみ星空観察会や八ヶ岳ふれあい星空観察を継続して実施したことに加え、自然教室においては地元農家と協力しながら、田植えや稲刈り等日常では行うことができない体験を提供するとともに、収穫したお米は体験を実施した学校に提供した。 ・利用者数に関して、主に自然教室における利用児童生徒数の減少や修繕工事による休館等の影響により目標値を達成できなかったが前指定管理時平均と比すと増加している。また、令和4年度利用者数と比較すると約4,000人増加しており、富士見町の恵まれた自然の中で、自然の家での生活や活動を通して心身を鍛錬し、青少年の健全な育成が図られた。				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	4	8
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組がなされているか			
(評価の理由) ・金銭管理・会計手続について、法人の規則等に従い、財務ソフト専用のパソコンによって適切に処理している。また、令和4年度から備品台帳を作成し、市の所有物品等と明確に区別して随時報告しながら適切な備品管理を行った。 ・効率的・効果的な支出については、電気契約の見直しによる経費の削減やフロートスイッチの交換、節電タイマーの設置、宿泊棟にLEDを設置したとにより光熱費を削減した。(令和4年度と比較すると約800万円の削減)					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	4	4
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	3	6
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
(評価の理由) ・施設・事業の広報について、施設ホームページやフェイスブック、インスタグラムの更新頻度を週2～3に増やし、施設の出来事や活動に関する写真や動画を定期的に配信した。また、近隣の観光施設や富士見町関連施設等にパンフレットを設置するとともに、かわさき市民祭りに参加し富士見町ブースを設け施設の利用についてPRを行った。 ・利用者への対応について、接遇マニュアル・苦情対応マニュアルを定め、利用者に対する接遇・配慮を適切に行った。 ・新型コロナウイルスの5類以降後も自然教室等において発熱などが発生した利用児童に対しては、速やかに医療機関への送迎を行えるよう他の職員も含めて送迎対応等柔軟に実施するなど、利用者が必要とするサービスの提供を行った。 ・令和5年度においては、学校側からGIGA端末を施設内で活用したいため、施設内にWi-fiを設置してほしいといった要望が多かったので、業者と検討しながら施設内に3箇所設置することができ、利用者のニーズを踏まえた施設設備の改善・工夫を行った。 ・利用者ニーズの把握について、継続して利用者アンケートするなど日頃から利用者ニーズの把握に努めた。					
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	3	6
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	4	4
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	4	4
(評価の理由) ・適正な人員配置について、概ね計画的に職員の採用・配置を行った。また、早番・遅番シフトを取り入れ、勤務時間の平準化、適正化を図り、長時間労働の解消につながった。 ・職員の研修体制について、リスクマネジメント資格を取得してから年数が経過した職員に対して、安全に自然教室や体験活動が行えるよう職員のリスクに対する復習と意識向上のための講習を実施した。また、施設が土砂災害特別警戒区域及び警戒区域内にあることから、地質学者を講師に招き土砂災害研修を実施し職員の意識向上につなげた。 ・個人情報の取扱いについて、個人情報保護規程を遵守しているほか、職員を対象に個人情報保護についての研修会を実施した。					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	4	4
		利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	3
	事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか				
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
災害発生時のマニュアル等が整備されているか					
(評価の理由) ・施設・設備の保守管理について、1日2回の日常点検において稼働状況の確認及び計器の記録を行いながら適正に管理した。また、光熱費の契約の見直しによって捻出した予算を基に、老朽化した床や壁の修繕工事を計画的に実施し利用者に不自由がないよう柔軟に対応した。 ・利用者の安全確保について、野外活動エリアは年間を通して常時安全点検を実施し悪天候時は、施設内外の点検を速やかに行った。また、令和5年度は施設内において寿命を迎えた樹木が多く、安全確保のため危険が予測される場所の樹木の伐採を職員自らで対応し、安全確保に向けた対策を適切に実施した。 ・敷地内に長野県が指定する土砂災害特別警戒区域において、当該施設が一部土砂災害警戒区域に該当することから、令和5年度において土砂災害マニュアルを改定するとともに、土砂災害訓練を実施し、土砂災害警戒エリア及び避難方法の確認を行った。					

注) 配点×(評価段階/5)＝評価点

4. 総合評価

評価点合計	69	評価ランク	C
-------	----	-------	---

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価

A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

八ヶ岳少年自然の家の施設運営及び事業推進においては、「自然に触れる」、「自然を感じるプログラム」を取り入れながら、自然の家のルールの中で子どもたちの育成に通じた事業を適切に講じながら、計画通り、市内全ての小中学校の自然教室等の円滑な受け入れを行った。併せて、学校側からGIGA端末活用のため、施設内にWi-fiを設置してほしいといった要望に対しても、業者と検討しながら施設内に3箇所設置され、利用者のニーズを踏まえた施設設備の改善及び工夫をしながら、サービス向上及び業務改善に向けた取り組みを行った。また、施設が土砂災害特別警戒区域及び警戒区域内にあることから、地質学者を講師に招き土砂災害研修を実施するとともに、土砂災害避難訓練を行い、職員の災害に対する意識向上につなげた。さらには、施設・設備の保守管理においても、1日2回の日常点検において稼働状況の確認及び計器の記録を行いながら適正に管理されたとともに、光熱費の契約の見直しによって捻出した予算を基に、老朽化した床や壁の修繕工事を実施し利用者に不自由がないよう柔軟に対応されたことから、利用者の安全・安心の確保に努めた対応を評価する。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

平成27年度に発生した事故の教訓を風化させることなく、引き続き、事故防止や衛生管理、利用者に対する注意喚起の徹底、災害や緊急時の適切な対応など、利用者にとって安全・安心に楽しめる施設となるよう、法人全体で施設の適切な管理運営に取り組むこと。、自然教室やスキー教室などの学校との連携事業については安心して利用していただけるよう、引き続き学校等関係機関との調整・連携にも努めるとともに、利用者数については増加傾向にあるものの、様々なツールを用い、施設の現状について正確な情報発信を継続して行い、施設利用を促進することで、自然の家を青少年の教育の場としてさらに機能させるよう取り組むこと。